



## 【神が教えて下さる豊かに実を結ぶ人生】

聖書本文:マタイの福音書13章1-9節/暗唱聖句:ヨハネの福音書(John)15章7節 説教者:鄭南哲牧師

(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！寒波が襲って来た一週間も愛するCPCの家族のみなさん、みんなお元気で主の平安のうちに過ごせましたか。

## ＜新約聖書に書かれているイエス様のたとえ話を理解すべき重要性＞

特に新約聖書を読んで見ると、イエスキリストは人々にたとえ話を通してよく神の御国について教えて下さった事が分かります。新約聖書マタイの福音書、マルコの福音書、ルカの福音書の中に書かれているイエス様教訓の3分の一は実はたとえ話の形になっている(マタイの福音書43%、マルコの福音書16%、ルカの福音書52%)ことを御存知ですか。ですからイエス様の言われたたとえ話をよく理解しなければイエス様が教えて下さった御言葉の教訓を正しく理解しつかむのは難しいです。そういうわけでイエス様のたとえ話はとても大切です。イエス様のすべてのたとえ話の確信的な主題は神の国についてです。これらの事実を覚えながら今日のイエス様のたとえ話によく耳を傾けて見て下さい。

## ＜1. 豊かな実を結ぶ人生になる事を望んでおられるイエスキリスト＞

神様は私たちの家庭や人生を祝福され、豊かな実りある人生になることを望んでおられます。神は私たちに実を結ぶ人生になることを期待されておられます。

ガラテヤ人への手紙5章22節の御霊の神の結ばれる実として具体的にこう教えて下さっています。「しかし、御霊の実は愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。」

特にヨハネの福音書15章でイエスキリストが語って下さった御言葉にもよく詳しく教えて下さっています。

ヨハネの福音書15章16節には、「あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようにするため、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはすべて、父が与えてくださるようになるためです。」

ヨハネの福音書15章4節をどなたが読んでくださいますか。

「わたしにとどまりなさい。わたしもあなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木にとどまっていなければ、自分では実を結ぶことができないのと同じように、あなたがたもわたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。」

答えは何ですか。‘主にとどまる事です。’すると主にとどまることはどんな意味ですか。イエス様と個人的な関係をむすぶことであり、イエス様と親密で持続的な交わりを保つことを意味します。それでは、どうやってイエスキリストとたえず密なお交わりができるのでしょうか。引き続きヨハネの福音書15章7節を注目してください。

「あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら、何でも欲しいものを求めなさい。そうすれば、それはかなえられます。」

つまり、神様の御言葉である聖書を通して神様と交わる事ができます。そして、聖霊とともに歩む事ができます。日々わたしたちが神様の御言葉をつかんで、読んだり、黙想しつつ、その御言葉通りに従って行くときこそ、その御言葉はわたしたちの中にとどまるようになります。10節にはそれについてこう書かれています。「わたしがわたしの父の戒めを守って、父の愛にとどまっているのと同じように、あなたがたもわたしの戒めを守るなら、わたしの愛にとどまっているのです。」

## ＜2. 本文:神の御言葉により豊かな実を結ぶ為の人の心構えの大切さ＞

今日のたとえ話はみなさんもよくご存知の‘種を蒔く者のたとえ話’の内容です。

すると、今日の本文は神様の御言葉を通して神の御言葉により豊かな実を結ぶ為の人の心構えについて教えて下さっているし、それがいったい神様の国にとどんな関係があるのかについても教えて下さっています。

この‘種を蒔く者たとえ話’はイエス様がこの例えの意味を直接解き明かして下さいました(18-23節)。

つまり、種は神様の御言葉であり、種が蒔かれる所は人の心だと言われました(19節)。この例えで、神の御言葉なる種には、命を持っており、かならず、芽生え、豊かに実を結ぶこととなりますが、どのような地か、その心構えを持って反応するかによって神の国を体験することも、長い年数が経っても全く変わりがなく実が結ばれなくなる時もある事を教えて下さっています。なぜでしょうか。

イエス様はこう言われました。「まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。(ヨハネの福音書(John)5章24節)」アーメン！まず、イエスキリストの御言葉に対して我々が聞き、語ったその方を信じて受け入れる時にと私たちは救われ、永遠の命持つ、人生が変わることが出来るとも教えて下さっています。ところが、ここでみなさん！疑問になることはないでしょうか。

“我々の周りにはある人は御言葉を通して人が、人生が変わり、救われた人もいれば、なぜ、どうしてずっと御言葉を聞いても変わっていないのか。”それについて今日の本文の種蒔きのたとえ話を通してイエス様はよく説明して下さいます。

それではイエス様はこの本文で種が蒔かれる4つの種類の地、つまり、神の御言葉に対する人の4つの心に対してどのように教えて下さったのか、今、最近我々の心の地はどのような状況であるかを点検して見たいと願います。

### ①道端に種が蒔かれた場合(マタイ13章4節、19節・ルカ8章5節、12節・マルコ4章4、15節)

まず、主人が蒔いた種が道端に落ちましたが、鳥が来て食べてしまいました(4節)。この例えについてイエス様はこのように解釈して下さいました。御国の言葉を聞いても悟らないと、悪い者が来てその人の心に蒔かれたものを奪って行く状態と同じであると言われました(マタイ13章19節「だれでも御国のことばを聞いても悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪います。道端に蒔かれたものとは、このような人のことです。」。ルカの福音書8章12節を通してイエス様は「道端に落ちたものとは、みことばを聞いても信じて救われないうちに、後で悪魔が来て、その心から、みことばを取り去ってしまう、そのような人たちのことです。」

ことだと教えて下さいました。ですから鳥たちは悪者であり、同じ内容がまた書かれているマルコ福音書4章15節にはその悪者がサタンであると教えて下さったことが分かります。

その道端という地はかたいところなので、そこに種が落ちて地中にも入れず、地の上に蒔かれて置いたそのままだったので、人に踏みつけられたりして、すぐその種は鳥によって食われやすくなってしまいます(ルカ8:5)。

特に、この“御言葉に対する道端のような心”というのとはどんな意味でしょうか。道端というのは人々が通行しているうちに固くなってしまったところでしょう。そのように道端のような心は神様の御言葉をいくら聞いても聞くふりはしても、聞いたそのままほとんど心に受け入れてない状態だと言えます。なぜなら、今まで、自分が持って来た経験したことや自分が知っている知識や固定観念のため、あるいは今までいろんな人々から受けて来た教育や伝統、思想のため、いつの間にかに自分の心が堅くなってしまい、自分だけが正しいと思込み、なかなか神様の御言葉に対して本気で聞こうも、理解しようともしない傾向があります。

今日の本文19節をもう一度ご覧下さい。それは御国の御言葉を聞いて悟らないからだと言われました。そういうわけで御国の福音を聞いても、述べ伝えられても、道端の心構えの人々は受け入れないのです。神の国に入れる条件はただ、神様の御言葉を聞いて、受け入れ、信じ従うことだけしかありません。

もちろん、愛するみなさん！礼拝に参加し、そして、神様の御言葉を聞く事により信仰の始まりであり、与えられる近道だと信じます。聞くことすらしないのに、どう信じることができるでしょうか。ですから、神様の御言葉を聞くチャンスはとても大切でしょう。しかし、ただ、礼拝にいくら長年参加したとしても、聞くだけで満足してはいけません。聞くだけの形だけで何の人生の変化も、我々が救われたり、神様の御国に入れることや体験出来ることのできるわけではないからです。

今日のこの道端の場合の例えははっきりと教えてくれます。

私たちが神様の御言葉をいくらたくさん聞いても、その御言葉に対して謙遜に心を開き、悟りを得て、心から信じ従わなければ、教会のドアをあけて、自分の生活にもどったとたんにサタンがその御言葉と悟りを持ち去ってしまう事実を忘れてはいけません。

愛する信仰の家族のみなさんの中には道端のような心を持っている方はいないのでしょうか。

いつも自分が持っている知識や自分の基準にして神の御言葉を理解しようとしてはいませんか。却ってみなさんが持っている考え方、信念が神様の御言葉を聞くときに、素直に、謙遜に受け入れるのに邪魔になってはいませんか。

マタイの福音書13章14-15節に、御言葉を受け入れない当時の人々に対してイエス様は旧約の大預言者であったイザヤの予言を引用してこう言われました。「あなたがたは聞くには聞くが、決して悟ることはない。見るには見るが、決して知ることではない。この民の心は鈍(にぶ)くなり、耳は遠くなり、目は閉じているからである。」しかし、主の御言葉に傾け信じている人々に対しては16節に、「しかし、あなたがたの目は見ているから幸いです。また、あなたがたの耳は聞いているから幸いです。」と祝福して下さいました。

ある人は聖書の話をも自分としては理解できないから信じられないと主張します。それは正しいと思われそうですが、大変間違った考え方かも知れません。なぜなら、真に賢い人は、自分の持っている理解力と知識の限界(げんか)いを認め、聞いてみよう、謙遜に学ぼうとする人ではないでしょうか。神の御言葉である聖書は自分の観点、理解の目で見ると、読む物ではなく、命ある神の御言葉として、我々を変え、救える御力のある物として、信じる信仰の心で見ると、信仰をもって読む時

そ、神の御業が理解ができるようになるものです。ですから、智恵の王と呼ばれたソロモン王は神の御言葉に対する心構えに対してこう語りました。

箴言3章5節には、「心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りに頼るな。」いつも神様の御言葉に対し、自分の心構えが道端のようにならないようにかたくなにならず、謙って、謙遜に学び、受け入れ、御言葉通りに実践し従っていく私とみなさんとなりますように切に祈ります。

### ②岩地に種が蒔かれた場合(マタイ13章5-6節、20-21節・ルカ8章6、13節・マルコ4章5-6、16-17節)

次は、神の御言葉なる種が岩地に蒔かれた場合を教えてください。

岩地とことろの原文ギリシャ語の聖書を見ると、‘岩がある地の上に(on rocky ground;RSV)’の意味です。道端のように表面からかたいわけではありません。土もあります、浅い土で岩の表面をそっと覆われている地を意味します。表では普通の良い地のように見えますが、浅い土の下にはすぐ大きな岩がおかれていて邪魔をするため種の根を深く着く事のできない状態の地です。

イエス様はこの岩地の状態について説明して下さったのがマタイ13章21節です。

「しかし、自分の中に根がなく、しばらく続くだけで、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。」ルカの福音書8章13節には、「岩の上に落ちるものとは、みことばを聞くと喜んで受け入れるのですが、根がないので、しばらくは信じていても試練のときに身を引いてしまう、そのような人たちのことです。」だと言われています。

岩地のような人の心ははじめは御言葉を興奮しながら喜んで聞き入れますが、しばらく経ってから御言葉通りに生きるのに自分が不利になったり、自分に何とか損になると思った瞬間に、その真理の御言葉に背を向けてしまう人だと言います。その理由についてみんな“根がないため、根がないので”だと共通に指摘されています。

種が芽生え、根をおろすべきなのに見えない地中の大きな岩があつてできないように妨げている地だということです。この場合は御言葉をよく聞いているようにはいつも見えますが、実は御言葉を深さを続けて学ぼうとせず、聖書の内容をより正しく知ろうとするよりいつも自己中心的に理解し、解釈している為御言葉の根が着かず、長年御言葉を聞いてもまったくその人の人格や考え方、行き方、価値観などが変わっていない人々を意味します。このような岩の地のような方々は定期的に礼拝にも参加し、御言葉も聞いているかも知れませんが、表面的だけであつて実際にはこのような人は自分が決めたある程度の生活の部分以外には神様の御言葉が自分のすべてを導くのを望みません。

聖書をもっと学んでその御言葉が自分の心と生活に深く影響を与えるのが好ましくありません。ただ自分に有益な部分だけの御言葉を取ろうとします。自分の幸せ、祝福を得ることなどには興味を持ちますが、主を信じているクリスチャンとしての自己犠牲、責任分担、他の人々のため仕えることやキリストの愛を持って分け与え、もてなすこと、労しながら愛の実践を行なうことに対してはうとうとしくなっています。このような傾向は特に信仰の生活をすればするほど、よく現されるかちです。

自分の今までの知っている信仰の知識、形であれば、それでもう十分だと思込んでいます。自分の長がらかな信仰の経歴(けいれき)と自分の熱心さ、自分がもっている聖書の知識と立場が岩のように固まってしまい続けて信仰の成長はある地点でとまってしまうのです。私も含め私たちみんなはいつもこれらのことを覚え、気を付けなければなりません。

いつも謙遜にさらに神様の御言葉を通して一生謙遜に学び、従いながら、キリストの似姿になる事を目指し、成長し、成熟し続けなければなりません。何か自分の中で岩のような固まってしまっているものがないのか、まんねりに陥ってしまうところ、固まろうとする面がないのか自分を振り返って見ましょう。そして、自分の中にすぐそのように妨げる岩のようなものをすばやく打ち壊し、ますます信仰の根を深く下ろし続けて揺るがない信仰、さらに成長していくみなさんとなりますように主イエスキリストの御名によって祝福し、お祈り申し上げます。

### ③いばらの地の中に種が蒔かれた場合(マタイ13章7節・22節・ルカ8章7・14節、マルコ4章7、18-19節)

次は茨の地であります。茨の地に落ちた種が実をむすべない理由をイエス様は、“いばらが伸びてふさいでしまった”と言われました。そして、この場合を解釈して下さったのがマタイの福音書13章22節です。「茨の中に蒔かれたものとは、みことばを聞くが、この世の思い煩いと富の誘惑がみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです。」と解説して下さいました。

ルカの福音書では、いばらの中に落ちるとは、「彼らはみことばを聞いたのですが、時がたつにつれ、生活における思い煩いや、富や、快樂でふさがれて、実が熟するまでになりません。(ルカ8:14)」だと教えて下さっています。

イエス様は御言葉である種が成長するのをふさぐいばらとはこの世の心づかいと富の惑わし、快樂だと言われました。この場合は御言葉を聞き、神様が約束して下さっている御言葉もちゃんとつかんではいますが、それだけではなく、同時にこの世のものにも捕らわれている状態であります。

御言葉の種が落ちて、根を下ろし、成長しようとするうちに、自分の中にやめられない快樂(酔っ払い、淫乱な行為、中毒など)や神の御言葉に従い行った信仰の成長&成熟を妨げる全てのものによって実が熟する事がなかなかできなく

なってしまう。

この世のこころづかいと富と快樂の誘惑や惑わしに捕らわれている人がもし貧しくなれば、その人はお金さえあれば神のようにすべてが解決され、全てが幸せになると信じ込んで、自分自身をごまかします。

もしその人が富んでいるならば、自分をもっと豊かになれば、神様をもさらに仕えることができるだろうと思ひこんで、ただ物質的な富だけが真の祝福であり、真の満足を得ることだと信じこんでいる人です。

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！もちろん、聖書は物質そのものを決して罪とか軽蔑(けいべつ)してはいません。聖書はお金や物質などに対し、我々がどんな価値感を持って、どのように使っているかに関心を示しているのです。例え、マタイの福音書19章16-26節には、ある青年がイエス様を訪ねて来てこう質問します。“先生、永遠の命を得るためにはどんなことをすればよいのでしょうか。”すると、イエス様は永遠の命に入りたいと思うなら、戒めを守りなさいと言われます。青年は“私はそのような律法のことは全部ちゃんと守っております。”と堂々と応えます。その時、イエス様は“それじゃ、もし、あなたが本当に完全に(あなたの願っている通りに)になりたいなら、却ってあなたの持ち物を売り払って貧しい人たちに与えなさい、そうすれば、あなたは天に宝を積む事になります。”と言われました。ところが、青年は自分の多くの財産をもって来たため、悩みながら、結局イエス様のそのお言葉に従えず帰ってしまったと書かれています。イエス様はすべての人にそのように語ったわけではありません。その青年は自称神様を信じでその御言葉に全部従って来たことと自慢したものの、同時に自分の財産に対しても拝み、神のように信じていたため、もし、彼に自分の財産がなくなったら、神様を信じる信仰からも離れるほど、物質に左右されてしまいがちの彼の弱い姿をご存知だったからそのようにイエス様は進めてくださったわけであり、この金持ちの青年の場合、彼の持っていた財産が却って神様の御言葉に従えないようにした妨げとなっていたのです。この世の心づかいと富の惑わしが私たちにあって神様に対する信仰より先になり、優先になっているなら、私たちの心の状態は茨の地になっていると同じです。

多くの人々は幸福は富からやって来ると錯覚します。もちろん、富が私たちの生活をもっと楽にさせることは事実です。しかし、富が私たちに真の平安と神の幸福まで保証してくれません。たくさんのお金があって、便利な生活をし、楽に暮らしているからといって全部幸せとは言えません。アメリカ、日本、ヨーロッパの人たちが特に世界どんな国より、人生が壊れ、家庭が壊されて自殺が多く、離婚率も高いのはこれらのことをよく表してくれるのではないのでしょうか。今日、特に物質に関して、我々も旧約聖書の中知恵の書である箴言の中に出てくるアグルと言う人が祈ったその祈り忘れないようにわれわれもそう祈れるように勧めます。「二つのことをあなたにお願いします。私が死なないうちに、それをかなえてください。8むなししいことと偽りのことばを、私から遠ざけてください。貧しさも富も私に与えず、ただ、私に定められた分の食物で、私を養ってください。9私が満腹してあなたを否み、「主とはだれだ」と言わないように。また、私が貧しくなって盗みをし、私の神の御名を汚すことのないために。(箴言30章7節—9節)」

人生において真に大切なのは、どのぐらい所有して来たのかではなく、生きておられる神様の御前でどのような存在として生きているのかが大切であることを忘れないで下さい。結局、神様の御言葉どおりに従って生きようとする、たとい環境はあんまり変わってないとしても、自分と自分の考えが、心構えがかわり、物事を見る見方が変わって、自分のおかれているところで天国のような喜びと幸せを味わえることができると信じます。私は神様の御言葉通りに信仰の根を下ろし、従う人々には心の神の平安と感謝のみならず、物質も神が必要を満たし、ついて来るようにして下さる事を何度も経験して来ました。私は神様の御言葉通りに従って一生懸命に生きようすれば、もし財閥(ざいばつ)にまでは行かないとしても、基本の生活はできるようにさせて下さると信じます。みなさんの心にいばらが伸びてふさごうとしないように、主の御言葉に信頼し、より頼みましょう。

そういうわけで、私はこのマタイの福音書6章24-34節の箇所を読むたびにとても励まされています。

『24だれも、二人の主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛することになるか、一方を重んじて他方を軽んじることとなります。あなたがたは、神と富とに仕えることはできません。25ですから、わたしはあなたがたに言います。何を食べようか、何を飲もうかと、自分のいのちのことで心配したり、何を着ようかと、自分のからだのことで心配したりするのはやめなさい。いのちは食べ物以上のもの、からだは着る物以上のものではありませんか。26空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納(おさ)めることもしません。それでも、あなたがたの天の父がこれを養っていただきます。あなたがたは、その鳥よりも、ずっと価値があるではありませんか。27あなたがたのうちだれが、心配したからといって、少しでも自分のいのちを延ばすことが出来るでしょうか。28なぜ着る物のことで心配するのですか。野の花がどうして育つのか、よく考えなさい。働きもせず、紡(つむ)ぎもしません。29しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華(えいが)を窮めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも装(よそお)っていませんでした。30今日あっても、明日は炉

(ろ)に投げ込まれる野の草さえ、神はこのように装(よそお)ってくださるのなら、あなたがたには、もっと良くして下さらないでしょうか。信仰の薄い人たちよ。31ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しないでよいのです。32これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。』この御言葉がみなさんにも信仰の確信と励ましと実際経験される証しになりますように切に願います。

#### ④良い地に種が蒔かれた場合(マタイ13章8節、23節・ルカ8章8、15節・マルコ4章8、20節)

最後に御言葉である種が良い地に落ちたということは、ルカの福音書8章15節によりますと、イエス様は、「しかし、良い地に落ちたものとは、こういう人たちのことです。彼らは立派な良い心でみことばを聞いて、それをしっかり守り、忍耐して実を結びます。」と解けて下さいました。良い地に蒔かれたというのは結局、神の御言葉を絶対信じ、どんな時にも忍耐を持って聞き従い、守り行い続けた結果、御言葉の約束と祝福の通り、豊かに実が結ばれる状態ということです。この良い地のような心の強調点は主の御言葉を聞いて、忍耐を持って従えば、御言葉の神の約束通り、御国に入り、御国の喜びに参加することが出来るというのです。それだけではなく、この地上でも、御言葉を聞いて従う程度によって100倍にも、60倍にも、30倍に豊かな実を結ぶことができるということです。

\* 神の御国: 神の御言葉の種が蒔かれ、御言葉通り全てが行われ、働かれ豊かな実が結ばれているところでしょう。

しかし、みなさんもよくご存知のように、時には御言葉を聞いて守り、従うのは容易くありません。自分の中で自分との戦いもあり、外からの艱難や妨げもあるだろうし、この世の心づかいと富の惑わしも来るでしょう。時にはイエス様の御言葉通り正しく信じ従うとすることによって損することももしかしてあるかも知れません。そういうわけで、ルカの福音書では“忍耐をもってよく耐えて”強調しています。主イエスキリストは今日も主の御言葉を聞いている我々一人一人の心が良い地となって、心開く、御言葉を根ざし、御言葉通り忍耐持って実践して行くうちに神が約束された多くの実を結ぶ豊かな人生になることを実際体験出来るみなさんとなりますように心からお祈りします(ヨハネの福音書15章16節:「あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはすべて、父が与えてくださるようになるためです。」)アーメン!

#### <まとめ>

メッセージを終らせたいと思います。今日のたとえ話によると、種は神様の御言葉であることが分かりました。そして、種が蒔かれた各地は人の心だと言われました。本日の礼拝に参加しているみなさんは新しく始まった新年この1月、そして一年間主の御言葉に対してどんな地(心構え、態度)を保って生きたいですか。

もし、自分の心が道端のようにいつの間にか頑なになっている状態であれば、耕(たがや)すべきでしょう。あらゆる、固定観念、先入観、自分の固執などをすてて神様の御言葉を受け入れなければなりません。もし、今自分の心の状態が岩地であるとしたら、御言葉を聞くたびに聞いただけで終るのではなく、その根が張れるように岩を取り除かなければなりません。もし、今も自分の中にいばらのようにこの世の心づかいと富の惑わしがあるならばそれをやけて、主の御言葉に対する信頼と信仰がもっと深めるように祈りましょう。

結局、結論的にこの例え話を通して我々が覚えるべきことは何でしょうか。

種に例えられた神の御言葉には生命力があり、かならず、実が結ばれるよう変える力があります。イエス様はこの例えを通して、神様の御国に入れるだけでなく、この世の中でも多くの実を結ぶ豊かな人生になる鍵は聞かれている神の御言葉に対してどう反応するか次第によって変わることを教えて下さっています。神の御言葉に聞き、忍耐をもって最後まで従う者が神の国を所有することができると教えて下さいました。神の御国は主の御言葉を聞き、悟り、従う者に訪れ、始まり、味わえることができます。マタイの福音書6章10節の主の祈りの中、「御国を来ますように。御心(御言葉)が天で行われるように地(わが人生、家庭、主の教会)でも行われますように。」また新年新しく始まった1月から始まる2021年にも、クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族みんな神の御言葉に対していつも良い地の心を保って、神の御言葉がみなさんの生活の中でたくましく根をおろしてますます30、60、100倍以上多くの実を結ぶ豊かな一年となりますように主イエスキリストの御名によって祝福を切にお祈り致します。アーメン!

